

’92 設立20周年 記念誌

日立市スポーツ少年団本部

’92 設立20周年

記念誌



日立市立記念図書館



101 130981 0

日立市スポーツ少年団本部



〈お祝のことば〉



「豊かなスポーツの体験を」

元日立市スポーツ少年団本部長 杉 浦 龍太郎

スポーツ少年団結成二十周年おめでとうございます。
私が、本部長をお引き受けしたのが、二十年前。年月の早さを感じております。

顧みますと、私の人生は野球人生、スポーツの人生でした。水戸に住んでいる時、警察署主催の不良化防止のための市内野球リーグが行われ、懸命にやってきた子供の頃を思い出します。いろいろなスポーツを通して、遵法のと精神と、敢闘の精神を身につけることができたように思います。

この精神は、近代社会においても欠くことのできないことでもあります。少年団団員各位もこのことを理解して、心身共に鍛えてほしいと思います。

水泳の木原美智子さん、体操の小野清子さんを迎えての指導を受けたことがあります、なかなかの指導ぶりを懐かしく思い出しました。

今後も、きめの細かい女性の指導法を採り入れて益々立派なご指導をお願いします。

スポーツ少年団の益々のご発展を祈念いたします。

日立市スポーツ少年団本部 20年のあゆみ

ー主要概要ー

昭和42年	5月	日立サッカースポーツ少年団発足
43年	11月	久慈スポーツ少年団発足
44年	5月	日立市柔道スポーツ少年団発足
	9月	日立市剣道スポーツ少年団発足
45年	4月	スポーツ少年団事務局が体育保健課内に発足
47年	10月	日立市スポーツ少年団本部発足
50年	7月	第11回県スポーツ少年団大会(野外活動)初参加 里美野外活動センター(以後毎年参加)
	10月	国体1周年記念県民スポーツフィスティバル招待
51年	9月	日立市青少年議所記念事業 青少年スポーツフィスティバル参加 (以後市民スポーツレクリエーション祭として継続)
52年	2月	第1回スポーツ少年団県北ブロック交流会開催 電線文体センター 剣道 参加約1000名
53年	8月	竹内杯育成大会 第1回野球大会開催(以後継続)
	11月	県ばら賞褒賞受賞 渡辺本部長
54年	1月	日立市スポーツ少年団リーダー会発足
	3月	第1回南部ブロック駅伝交流会開催(以後継続)
	5月	日本スポーツ少年団より育成実験地区事業の指定を受ける
	7月	第3回全日本少年サッカー大会出場 東京 日立市選抜チーム 全国スポーツ少年団交流大会出場 ・愛知 野 球(金沢野球)8月 ・東京 剣 道(選抜チーム)55年3月 ・東京 卓 球(選抜チーム)55年3月
	10月	市制40周年記念 第5回市民スポーツ祭 市民運動公園他(全団参加)
55年	2月	第1回育成母集団研修会開催 電線文体センター
	3月	文集「わかば」発行
	3月	第11回関東ブロックスポーツ少年団大会初参加 神奈川県野外教育センター(以後毎年参加)

3月 第1回南部ブロックスポーツ少年団駅伝交流大会
開催 市民運動公園内（以後継続）

7月 第4回全日本少年サッカー大会出場
東京 日立市選抜チーム

9月 関東ブロック指導者協議会発足

11月 第1回日立市スポーツ少年団指導者と父母の集い
開催（以後継続） 多賀市民会館

56年 3月 第3回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 剣道（選抜チーム）
・東京 卓球（選抜チーム）

7月 関東ブロックスポーツ少年団バレーボール大会を日立市で開催
（以後継続）

8月 第19回全国スポーツ少年団大会初参加
山梨県 指導者1名 団員2名（以後毎年参加）

8月 竹内杯育成大会 第1回女子バレーボール大会開催（以後継続）

10月 「日立市スポーツ少年団だより」作成

57年 3月 県スポーツ少年団北部ブロック交流会
種目がバレーボールに変更されて開催

8月 第6回全日本少年サッカー大会出場
東京 日立市選抜チーム

9月 県スポーツ少年団北部ブロック交流会
第1回ミニバスケットボール交流大会として開催される
（以後継続）

58年 3月 第5回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 剣道（選抜チーム） 優勝
・東京 卓球（選抜チーム）

8月 第7回関東少年サッカー大会
山梨県 日立市選抜チーム 優勝

59年 3月 第6回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 剣道（選抜チーム）
・東京 卓球（選抜チーム）

8月 第1回スポーツ少年団スポーツ大会参加（以後継続）

8月 日本スポーツ少年団中央リーダースクール初参加
秋田県 団員3名（以後毎年参加）

60年 3月 第7回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 剣道（選抜チーム）
・東京 卓球（選抜チーム）

7月 第1回宿泊交流会を日立市で開催（以後交互開催）
水府・日立両市スポーツ少年団

7月 第9回全日本少年サッカー大会出場
東京 日立市選抜チーム

8月 県スポーツ少年団親善交流水泳大会参加
水戸市民プール 3団 174名

9月 日本スポーツ少年団本部指定モデル少年団育成事業開催
（3ヶ年継続事業）
・指導者研修会
・指導者と父母の集い
・体力テスト会
・総合交歓活動

61年 3月 第8回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 卓球（選抜チーム）

7月 第13回スポーツ少年団日独同時交流に日立市から初の団員派遣
高橋 知見（久慈）
西ドイツヘッセン州

7月 第10回全日本少年サッカー大会出場
東京 日立市選抜チーム（ベスト4）

8月 第21回関東マーチングバンド・バトントワリング・フェスティバル
出場 栃木県宇都宮市
ひまわりバトン少年団 優秀賞受賞

8月 第1回桐生市・日立市スポーツ交流会
群馬県桐生市内（以後会場交互に毎年開催）

62年 3月 第9回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 卓球（選抜チーム）

7月 第11回全日本少年サッカー大会
東京都 日立市選抜チーム 第3位

7月 第14回スポーツ少年団日独同時交流派遣
・佐藤 真紀（久慈）

・清水 智代 (久慈)
・大内 朋代 (久慈)

8月 第3回全国少年少女陸上大会出場
東京 日立市選抜

9月 スポーツ少年団認定指導員養成講習会を日立市会場にて開催
参加60名 (以後継続)

63年 3月 第10回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 剣道 (選抜チーム) 敢闘賞
・東京 卓球 (選抜チーム)

7月 第12回全日本少年サッカー大会
東京 日立市選抜チーム 第4位

7月 第15回スポーツ少年団日独同時交流派遣
・深作 万里子 (久慈)
・木村 美由紀 (若鮎)

8月 第4回全国少年少女陸上大会出場
東京 日立市選抜

9月 63年度日本スポーツ少年団顕賞
日立市スポーツ少年団本部 受賞

平成 元年 3月 第11回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 卓球 (選抜チーム)

7月 第16回日独スポーツ少年団同時交流日立市受け入れ
(指導者1 団員13 通訳1)

7月 第16回スポーツ少年団日独同時交流派遣
・梅原 千草 (久慈)

8月 竹内杯育成大会 第1回男女ミニバスケットボール大会開催
(以後継続)

9月 平成元年度日本スポーツ少年団顕賞
宮田乃武衛 氏 (副本部長) 受賞

10月 市制50周年記念日立市民スポーツ・レクリエーション祭参加
(約2,000名)
日立市民運動公園

2年 3月 平成元年度日立市善行少年表彰
塙山・会瀬両スポーツ少年団 受賞

3月 第12回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 卓球 (選抜チーム)

6月 全国・関東ブロック競技別交流大会県大会
助川野球 (野球の部) 準優勝
油縄子バレー (バレーの部)

7月 第17回スポーツ少年団日独同時交流派遣
・西松 美穂子 (久慈)
・比佐 歩 (久慈)

7月 第11回全日本少年サッカー大会出場
東京 日立市選抜チーム

9月 平成2年度日本スポーツ少年団顕賞
小林 重夫氏 (東多賀剣児会) 受賞

3年 1月 平成2年度日立市善行少年表彰
日立市スポーツ少年団リーダー会 受賞

3月 第13回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 卓球 (選抜チーム)

7月 長崎県雲仙普賢岳噴火に伴う災害義援金募金
市スポーツ少年団から193,478円
(県全体で2,592,385円)

7月 第18回スポーツ少年団日独同時交流派遣
・鈴木 孝子 (東金沢ガールバドミントン) 指導者
・古矢 勇夫 (久慈)
・葛西 君枝 (久慈)
・高橋 佳見 (久慈)
・三代和賀子 (久慈)

7月 第12回全日本少年サッカー大会出場
東京 日立市選抜チーム

8月 全国少年少女陸上競技指導者表彰
檜村 実氏 (日立陸上クラブ) 受賞

8月 竹内記念杯少年少女スポーツ育成大会
第1回サッカー大会開催 (以後継続)

10月 平成3年度社会体育優良団体表彰
日立市スポーツ少年団本部 文部大臣表彰受賞

- 10月 平成3年度日本スポーツ少年団顕賞
故 高橋 俊雄氏(野球少年団連絡協議会長)受賞
- 10月 平成3年度日中青少年スポーツ交流団(指導者)参加
本部長 渡辺 昭
- 中国各位
- 4年 3月 平成3年度日立市善行少年表彰
久慈スポーツ少年団 受賞
- 3月 第14回全国スポーツ少年団交流大会出場
・東京 卓 球(選抜チーム)
- 4月 日立市スポーツ少年団本部事務局が日立市民運動公園陸上競技場
(財団法人日立市体育協会内)に移動
- 7月 第19回スポーツ少年団日独同時交流派遣
・蛭田 豊(中小路卓球)指導者
・今橋 美紀(久慈)
・猿田真木子(久慈)
- 9月 平成4年度日本スポーツ少年団顕賞
益子健一郎(多賀剣道)受賞
- 10月 平成4年度スポーツ少年団認定指導養成講習会
(日立市会場)を育成指導員協議会主体で開催

——日立市スポーツ少年団本部設立20周年記念事業——

- 10月10日 スポーツ&レクリエーション大会
市民運動公園野球場
- 11月11日 祝 賀 会 ホテル天地閣
- 11月14日,15日 カンボジア難民援護チャリティバザー
ノーポイ推進空き缶モザイク画製作
日立パティオ広場
- 2月中旬 記念誌発刊

《歴代本部役員》

- 本 部 長 杉 浦 竜太郎(47年~51年)
渡 辺 昭(52年~現在)
- 副 本 部 長 故 小 浜 昭 一(50年~51年)
故 福 田 裕 男(52年~56年)
大 森 茂(57年~現在)
宮 田 乃武衛(平成元年~現在)
今 橋 孝 行(平成元年~現在)

《日立市スポーツ少年団登録者数の推移》

年度	種目	団 数	団 員 数		小 計	指導者数
			男	女		
47		20			2,126	79
49	7	27	2,011	202	2,213	108
50	8	34			3,094	85
51	8	45			3,005	
52	11	49			3,646	255
53	13	56			4,323	327
54	14	65	3,909	1,053	4,962	408
55	16	70	4,011	1,167	5,178	475
56	16	70	4,163	1,012	5,175	503
57	16	77	4,139	1,192	5,331	526
58	18	80	4,464	1,171	5,635	575
59	18	83	4,545	1,251	5,796	573
60	21	89	4,504	1,427	5,931	638
61	21	93	4,309	1,395	5,704	751
62	22	98	4,071	1,339	5,410	822
63	21	98	3,674	1,161	4,835	795
元年	21	95	3,338	1,014	4,357	737
2	23	103	3,302	1,112	4,424	782
3	23	105	3,098	1,050	4,148	747
4	23	106	3,173	1,200	4,373	784

< 記念誌 発刊 >

○発刊計画

1 目 的

日立市スポーツ少年団本部設立20周年記念事業の一環として記念誌を発刊し、本部及び各単位団の歩みと活動状況を紹介し、今後の充実、発展に資する。

2 発刊予定 平成5年2月

3 印刷部数 700部

4 規 格 B5版 約140ページ

5 内 容

・あいさつ 日立市スポーツ少年団本部長
日立市長
日立市議会議長
日立市教育委員会教育長
(財)日立市体育協会会長
前 日立市スポーツ少年団
本部長

・本部設立20年の歩み
・本部団員、規約、組織構成表
・日立市スポーツ少年団登録一覧
・20周年記念事業紹介
・各単位団の歩みと現状紹介

6 配布予定 各単位団② 広告協力者各①

市関係者、体育団体及び関係者、市内小中学校、図書館等

7 広告の募集 各単位団は記念誌に登載する。 広告を1件以上確保する。

8 作業日程

日時	会 議 ・ 内 容 等
5/13	第1回委員会 記念誌の基本計画、作業計画分担
6/19	第2回委員会 原稿用紙作成、原稿依頼状作成
6/20	各単位団へ原稿依頼発送 (原稿締切り 8月末)
9/9	第3回委員会 原稿応募状況と未提出団対策

9/21	第4回委員会 原稿校正、未提出団への督促
9/30	第5回委員会 原稿校正 広告整理
10/26	原稿業者委託
11/17	あいさつ文依頼訪問
12/3	第6回委員会 装丁、編集、校正
12/7	第7回委員会 印刷校正、業者との打合せ あいさつ文等業者委託
12月～	印刷製本
1月	
2月	第8回委員会
上旬	記念誌発送

記念誌担当委員は10名、それぞれが多忙な職務や用事をかかえている中、前記の作業日程の外、必要に応じて都合のつく委員だけで会合をもつなど、4月から2月の長期間、根気よく発刊の努力を続けてきた。限られた予算の中で、できるだけ写真を挿入すること、記念行事の実施状況も載せ、記念誌としての内容充実をはかることなど、特に苦心してきたところである。

記念誌は、多少余裕をもって印刷し、希望者には実費で頒布する予定である。

< サ ッ カ ー >

日立サッカースポーツ少年団 (本部)

・創立と歩み

日立サッカースポーツ少年団は、昭和42年5月結成され、本年26年目を迎えた。

当時は、東京オリンピック後のサッカーブームの中にあり、日立の子どもたちにもサッカーの機会を与え、サッカーを通じて、①スポーツ愛好 ②仲間づくり ③体力、精神力づくりを目標に、故推木徳寿先生を中心に有志たちにより結成された。

当初は、団員数146名、練習日は土曜日、練習会場は大久保小、助川小の2会場、月1回会瀬グラウンドで合同練習、ボールやユニホームは、団で用意するなど子どもたちへの経済的負担のないように配慮した。

運営に当たっては、常に指導者間の共通理解と指導の統一性に留意しながら、技術向上のためには、オリンピック選手の宮本、奥寺、全日本長沼監督等を招いて教室、国際試合の見学

(東京)、日本サッカーリーグの見学や前座試合、他チームとの交歓(清水、古河)、団員の親睦交流を図るため、サッカーフェスティバルの開催(宮本杯、鎌田杯)、夏季合同合宿(43年より)、団の機関誌「躍動」の持廻りの発行、ママさんチームの結成など充実のための施策に努力した。

昭和50年前後ごろより、団員数は急激に増加し、全市から入団するように及び、各小学校単位に分離独立するようになり、本部組織の中で統一をとりながら、子どもたちのスポーツとして、普及定着するに至った。

・平成4年度の組織状況

大みか	78	滑川	72	成 沢	76
日 高	112	宮田	90	油縄子	53
豊 浦	60	助川	100	大久保	70
大 沼	95	坂本	78	諏 訪	90
中小路	51	金沢	74	水 木	72
塙 山	78	会瀬	45		

合計 1294名 指導者 125名

・主な活動

- ①健康サッカー大会 8月 高・低学年
- ②学年別サッカー大会 11月 3年以上
- ③読売杯サッカー大会 1~2月 3年以上
- ④桜カップサッカー大会 5月 (本年第7回)
関東、福島、県内から12チーム招待
日立市から4チーム 計16チーム
- ⑤合同合宿練習日 8月 (本年25回)
5年生対象200名 大心苑 2泊3日
- ⑥日立選抜チームの編成と出場
- ⑦サッカー教室開催
- ⑧役員会、理事会、指導者会
・輝かしい成績

編成以来26年、県内の大会では常にリードし、全国大会でも好成績を収めており、少年団のOBたちも、サッカー界の各方面で活躍している。

全日本少年サッカー大会決勝大会への出場は、全国少年サッカーチームの夢であるが、日立は16回のうち12回出場、上位の成績を収めている。(60年は第3位)

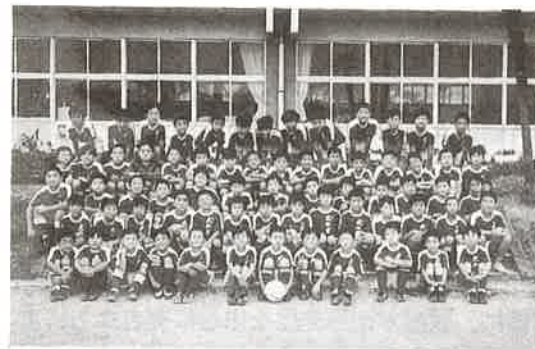
この大会で、今までに次の選手が優秀選手に選ばれている。

- ・伊藤 誠二 (大みか) 第4回大会
- ・大坪 貴之 (坂 本) 第8回大会
- ・榎村 幹 (坂 本) 第9回大会
- ・瀬谷弘一郎 (助 川) 第10回大会(磐城大会)
- ・石川 力 (日 高) 第10回大会
- ・木梨 卓 (河原子) 第11回大会(磐城大会)
- ・小針 成義 (河原子) 第11回大会
- ・西村 和明 (金 沢) 第12回大会
- ・橋本 信二 (豊 浦) 第12回大会(磐城大会)
- ・海津 哲弘 (滑 川) 第12回大会(磐城大会)
- ・与板 将之 (宮 田) 第15回大会
- ・皆川 昌弘 (塙 山) 第16回大会
- ・OBたちのなかにも、橋本雄二 (全日本ユース代表選手) 入井和久 (プロサッカー選手) 平沢健一 (世界フェスピック大会) などの活躍がある。

〈サッカー〉*****

大みかサッカースポーツ少年団

1. 所在地 日立市大みか小学校内
2. 創立 昭和50年4月21日
3. 指導方針
サッカーを通じて、子供達ができるだけ、自分で工夫し、みんなで仲良くスポーツのできる環境づくりと同時に、少年団の基本的な活動の目的は健康的スポーツであり、身体づくり、健康づくりを考えた規律である「楽しむサッカー」の活動をめざしている。
4. 大みかサッカー少年団の歩み
◇昭和50年度
4月 発会式(団員5、6年生34名)
◇昭和51年度
7月 市選抜選手に(小沢、伊藤、片根)の3名が選ばれる。
◇昭和53年度
9月 市スポーツフェスティバルで総合優勝
◇昭和54年度
7月 市選抜選手に(征矢(元)、木村、須藤、征矢(広)、梶山)の5名が選ばれる。
10月 市スポーツフェスティバル総合優勝。
◇昭和55年度
7月 市選抜選手に(伊藤、郡司、神山、荒川、所、木村)の6名が選ばれる。
10月 市スポーツフェスティバルで総合優勝する。
◇昭和56年度
7月 市選抜選手に川崎君が選ばれる。
◇昭和57年度
7月 市選抜選手に(沢畑、猪股、山形)の3名が選ばれる。
◇昭和59年度
3月 読売杯に6年が、準優勝する。
◇昭和60年度
7月 市選抜選手に(黒澤、益子兄弟)の3名が選ばれる。
11月 10周年記念親子サッカー大会実施。
◇昭和61年度
2月 読売杯に5年が、3位入賞する。



- ◇昭和62年度
5月 日立桜カップ大会に(古河、工藤、浜岡)の3名が出場。
- ◇昭和63年度
5月 日立桜カップ大会に(北原、渡辺)の2名が出場。
- ◇平成元年度
7月 市選抜選手に柴田君が選ばれる。
- ◇平成2年度
7月 市選抜選手に今橋君が選ばれる。
11月 日立工業杯に優勝。
11月 スポーツ少年団県大会で3回戦進出ベスト16になる。
- ◇平成4年度
目下、学年別大会、読売大会に備えて猛練習中である。
5. 練習日
毎週土曜日を全体練習日として、平日の放課後は、水曜日2年、3年、4年、木、金曜日は5年、6年と学年別に練習している。
6. 現況 -平成4年度-
- | 団員数 | 指導者 | 担当学年 |
|---------|-------|-------|
| 2年生 14名 | 鈴木 猛 | 2、3年生 |
| 3年生 11名 | 間宮 宏 | 4年生 |
| 4年生 18名 | 鈴木 健 | 4年生 |
| 5年生 22名 | 田中慎一郎 | 5年生 |
| 6年生 14名 | 上野 望 | 5年生 |
| | 渡辺 幹夫 | 6年生 |
| ※合計78名 | 三代 喜良 | 4年生 |

〈サッカー〉*****

日高サッカースポーツ少年団

1. 団設立
昭和49年団設立準備
昭和50年団結成
2. 団活動方針
イ) 地域社会と幅広い交流
ロ) 青少年の健全育成
ハ) チームの和と個人技術の向上
3. 団設立から今日までの歩み
イ) 指導員及び団員の推移

年度	指導	団員	年度	指導	団員
50	16	106	60	16	204
51	21	169	61	15	239
52	24	169	62	15	221
53	20	187	63	15	175
54	18	210	元	12	159
55	20	230	2	12	150
56	17	242	3	13	149
57	17	207	4	13	170
58	16	195			
59	18	206			

- ハ) 最近の各大会参加と成績
- | 各大会 | 学年 | 平成2 | 平成3 | 平成4 |
|-------|----|-----|-----|-----|
| 日高大会 | 6年 | 3位 | 3位 | 4位 |
| 大根大会 | 6年 | 参加 | 参加 | 4位 |
| NTT大会 | 6年 | 参加 | 参加 | 参加 |
| 健康杯 | 6年 | 優勝 | — | — |
| 竹内杯 | 6年 | — | 参加 | 3位 |
| 友部大会 | 6年 | 優勝 | — | — |
| 東電大会 | 6年 | — | 参加 | 準優勝 |
| 蹴杯 | 6年 | 優勝 | 参加 | — |
| 笠松大会 | 4年 | 参加 | 参加 | — |
| | 5年 | 参加 | 優勝 | — |
| | 6年 | 3位 | 参加 | — |
| 市内大会 | 3年 | 準優勝 | 3位 | — |
| | 4年 | 準優勝 | 準優勝 | — |
| | 5年 | 優勝 | 優勝 | — |
| | 6年 | 参加 | — | — |
| 県大会 | 4年 | 3位 | 参加 | — |
| | 6年 | 準優勝 | — | — |
| 本庄大会 | 6年 | 優勝 | 優勝 | — |

- | | | | |
|-------|----|-----|-----|
| 永山杯 | 6年 | 優勝 | 準優勝 |
| 永盛杯 | 6年 | 優勝 | 参加 |
| 市内読売杯 | 3A | 優勝 | 3位 |
| | 3B | 優勝 | 準優勝 |
| | 4A | 優勝 | 準優勝 |
| | 4B | 3位 | 優勝 |
| | 5A | 優勝 | 参加 |
| | 5B | 優勝 | 優勝 |
| | 6A | 準優勝 | 優勝 |
| | 6B | 優勝 | 参加 |

4. 現在の活動
イ) 練習会場 1～4年 日高小学校G
5～6年 田尻小学校G
ロ) 練習日時 毎週土曜日午後1時30分～
ハ) 活動内容・夏季合宿・親子大会・親善試合・日立サッカースクール・初蹴・日高地区史跡めぐり等年間を通し沢山の活動を実行
5. 平成4年度団組織構成
- | 顧問 | 技術指導員 |
|------|-----------------|
| 茅根伝一 | 鈴木哲士 西野宮孝 関 克己 |
| 永山雄資 | 指導員長 副指導員長 |
| | 大久保興 菊池和雄 |
| 団長 | 6年監督担当 |
| 茅根茂彦 | 西山 忍 小高忠良 |
| 副団長 | 5年監督担当 |
| 柳生節朗 | 菊池和雄 河村 隆 須田 典征 |
| | 4年監督担当 |
| 事務局 | 藤田勝広 太田康夫 |
| 市副団長 | 3年監督担当 |
| 小高忠良 | 梶山靖男 大久保興 |
| 市理事 | 2年監督担当 |
| 菊地 昇 | 森 茂 相田 修 |
| | 1年監督担当 |
| | 吉田文男 菊地 昇 |
| | 会計 監査 学年外 |
| | 熊久保弘 森 茂 小室昌治 |
| | 後援会長幹事長 副幹事長 |
| | 茅根賢治 佐藤基司 早川扇太郎 |

<サッカー>

豊浦サッカースポーツ少年団

第十回くろしおサッカー大会を 迎えるにあたって

昭和57年8月、8チームの参加を集い、浜の宮グラウンドで第1回を開催しました。当時は育成会もなく、無我夢中の大会であった。第2回は、16チーム参加で開催しました。豊浦中学校と日高電線グラウンドの2会場で3日間の大会となり市内6チーム、市外1チーム、県外9チームの内容でした。第3回大会は、20チームの参加で3日間の大会でした。期間中は航空事故の大惨事のニュースがラジオから流れてきたことが第10回開催するにあたり、今でも覚えています。第4回大会は、20チームの参加で8月13、14、15の恒例の開催でした。この大会から県外チームの参加が多くなり、確実にくろしおサッカー大会が名実とも定着してきました。この大会から、豊浦中学校の理解の元に会場で開催する事が出来、育成会の支援が非常にスムーズになってきました。第5回は20チームの参加で3日間開催しました。記念大会となり、地元豊浦チームは期待がありましたが、残念ながら、決勝トーナメント1回戦での敗退となり優勝は埼玉県川口朝日チームが第1回目につき2回目の優勝となりました。第6回大会は、地元開催チーム、豊浦が念願の優勝する事ができました。20チームの参加、そして3日間の大会運営、育成会の支援があつての大会がようやく開催チームに優勝旗が残る感動の第6回大会でした。第7回は市内6チーム、市外4チーム、県外10チームの参加で13、14、15の3日間豊浦中学校で開催となりました。県外は埼玉県、福島県、栃木県、千葉県、宮城

県からのチームが参加しました。前回から市内のチームが優勝するようになってきました。塙山チームが優勝しました。第8回大会は前回の県外チームに新に愛知県豊田市のチームが遠路参加するようになり、市内の助川チームが念願の初優勝で終わりました。この大会期間中は、非常に暑く、育成会が氷の手配に一苦労してしまいました。なんと氷代が7万円かかりました。第9回大会は新に秋田県、岩手県チームが参加するようになり、東日本各地のチームが11回開催する事が出来ました。第1日目が雷を伴う雨となり、大会運営に支障をきたすことがありました。過去を振り返っても初めての事でした。2回目からは天候にも恵まれ、順調に進めることが出来、初参加の岩手県見前チームが優勝しました。5年が主体のチームでしたので、本年4年度の全日本サッカー大会に岩手県代表となり、見事ベスト8の活躍となりました。第10回は記念大会となり、参加チームも前回同様各県にまたがり12、13、14の3日間、豊浦中学校で無事開催する事が出来ました。育成会、育成OB会の支援を頂き、参加賞もウチワ、タオル、プログラムを20チームに渡すことが出来ました。第10回大会を終わってみて、豊浦地区の理解と育成会、OB会の支援によるものと感謝し、今後の発展を願ってやみません。



<サッカー>

滑川サッカースポーツ少年団

滑川サッカースポーツ少年団は昭和49年度に設立され、滑川小学校の先生方による御指導によって始まった。

団員の健康で活力に満ちた心身の育成とサッカーを通しての仲間づくりと助け合いの精神を養うことを目的として発足した。

発足当時より昭和50年代後半までは団員数が200人を越え、学年によっては3～4チームも編成出来たとの事であり団員の競争意識も高かった様であり、数々の大会に於いて良い成績を残しました。

近年に於いては、団員数も少なくなり平成4年度は、2学年より6学年まで1学年3名を含めて69名と各学年平均すると13～14名の団員数であり、病気や私用等で欠けることもありどうしても勝ちたい試合の時等はメンバーのやり繰りに指導員の方も頭を悩ます事も多い様である。

昭和59年頃から指導員の方も滑川小学校の先生から地域内の経験者や未経験者でも、指導員としてやる気のある方をお願いし現在の指導員体制に至っている。現在、団長も自ら指導員の一人と成っており、団のまとめと指導の両面から御協力頂いており全員で10名の指導員が居て恵まれた指導体制と成っている。

各学年2名の指導員が低学年より担当して6学年退団まで団員の進級と共に指導頂き、得手、不得手は勿論、性格の角ずみまで見抜かれておりサッカーを通して育ての親に成って頂いており、退団の6年生を送る会は指導員の気持ちもひとしおの様である。又指導員の中には、発足当時滑川サッカー少年団の団員だった方が現在では社会人と成って指導員として活動頂いているのも滑川サッカー少年団としての誇りである。

昭和55年4月に滑川サッカー少年団をはげます会が発足し、会長、副会長、幹事、会計、会計監査の役員で構成され、練習及び大会等へ

の協力、応援、各種大会参加費の援助等を行なっている。又、平成4年度より、団とはげます会を一体化し、名称も後援会と改め、月1回、指導員と後援会役員による指導員連絡会議を開催し、結果報告や試合日程の連絡、意見交換の場として活用運営している。

現在の活動内容として、週2回の練習と月2回の他サッカー少年団との練習試合を実施している。夏休みは、練習日も多くなり年間行事の全体合宿もこの時期に消化し中学生を混えての合宿は滑川サッカー少年団の伝統でもある。又、この時期より各種大会も多くなるので特に高学年は滑川中学校サッカー部との試合も指導者の方に組み入れてもらい強化を行なっている。練習は、主に滑川小学校グラウンドを借用し、備品納入庫もグラウンド内に設置させて頂いております。

今年度は、各学年による合宿や懇親会が多く実施され、尚一層の後援会と指導者と団員の結束が図られています。

滑川サッカー少年団を設立から現在まで引継ぎ支えて来てくれた指導員、役員、会員の諸先輩方々の御尽力に改めて感謝申し上げます。



〈サッカー〉*****

宮田サッカースポーツ少年団

宮田サッカー少年団は、日本スポーツ少年団の目的に従い、地域の学校教育活動外において、サッカーを通じ青少年の心身の健全な育成に資することを目的として活動しています。

そして、その目的を達成するために。

- ・サッカーを主体としたスポーツ活動
- ・レクリエーション活動
- ・他団体との交歓交流活動
- ・その他本団の目的達成に必要な活動

を行っています。

団員は、宮田小・仲町小を中心に、今年度は80名を越え、年々減少してきた団員数が増加し、さらに活動に熱が入ってきました。

特に、わが国は、「楽しいサッカー」を目指し、団員全員がサッカーの原点に親しむことをモットーとしています。そして

- ・あいさつができる。
- ・元気な声ができる。
- ・友達と仲良くする。
- ・責任感を持つ。

団員の育成に努めています。

練習は

- ・毎週土曜日 午後1:00～4:00 宮田小
- ・第3土曜日 午後1:00～4:00 仲町小
- ・毎週火曜日 午後4:00～6:00 宮田小
- ・第3日曜日 午前9:00～12:00 宮田小
(親子サッカー)

で、毎回ほとんどの団員が参加しています。

指導者と父母、そして団員が、和気あいあいと活動できるのも、わが団の特徴です。

学校5日制が始まり、ますますスポーツ少年団への期待が増大してくると思います。スポーツの輪を広げ、地域に根ざした青少年育成活動を、今後も役員及び指導者一同、さらに努力していきたいと思っています。



〈サッカー〉*****

助川サッカースポーツ少年団

設立は昭和42年5月、現教育長の大越先生が中心となって助川小学校を会場にスタートしました。日立市のサッカー少年団のうちでもっとも古い団で、同じ時期に桧山氏らによってスタートした大久保サッカー少年団と共に日立市サッカー少年団の草分けです。オリンピック選手の宮本選手（現鹿島アントラーズ監督）の母校でもある助川小学校は昔からサッカーをする生とも多く、沢山の先輩が各方面で活躍しています。

当初は、指導者も学校の先生や市役所の選手の方たちによって運営され、団員が増えるにしたがって充実し、その後成沢、会瀬、仲小路少年団等に発展してきました。結成当初は助川小グラウンドのほか月一回、日立製作所日立工場の会瀬グラウンドに大久保小の団員も交え合同練習等を行ってきました。これらが母体となって現在の日立市サッカースポーツ少年団が組織され、またこの名残が市内団員による大心苑合宿となって現在にいたっています。



団の構成は、団員と指導者および後援会で組織され、平成4年度は団員98名、指導者6名の組織で運営しています。昭和53～4年頃には50数名と一時団員の減少もありましたがその後徐々に団員が増加し、昭和62年の130名を超えたときをピークに、その後は8～90名を前後した団員数で活動しています。

団もモットーを「楽しく」「伸び伸び」「仲良く」とし、いつまでもスポーツに親しむ健康な人作りを目指し、遊びの中からサッカーの技術や戦術が身に付くよう心がけています。小学2年生から6年生まで毎週火曜、木曜、土曜の練習に励み、他の少年団との交流は日曜日等に行なっています。

年間スケジュールは、4月の「入団式」に始まり7月の「合宿」、8月は千葉県市川の「百合台小との交流会」、秋の「市内学年別大会および県大会」、2月の「よみうり杯少年サッカー大会」、3月の「百合台小への遠征」となっています。特に百合台小との交流は昭和58年から始められ10年間継続しており、夏と春の交流時には、お互いの団員の家庭にホームステイし友情を深めています。また単位団合宿のときには低学年から高学年までを一グループとし、ひとつの部屋で寝起きするとともに、部屋ごとに自主性を持って行動するようにし、自立心の育成を計っています。レクリエーションとして地曳網や高鈴山ハイキング（不定期）なども行なって自然と親しんだり、父子サッカーや母子サッカーなどを通して親子の交流を深めています。

団の成績は団員数の多少の比例し、昭和52～3年頃は一回戦敗退となかなか勝てない時代がありましたが、団員の増加とともにチーム力も向上し、市内大会の優勝や、県学年別大会への出場など、最近では市内チームの上位にランクされる少年団の評価を得ています。また日立選抜チームも数多くの選手が選ばれ、全日本少年サッカー大会に出場して活躍しており、昭和61年の第10回大会に出場した瀬谷選手などは優秀選手として全日本トレセンに参加し、翌年東京で行なわれた世界少年サッカー大会の日本代表として出場し、活躍するなど沢山の優秀選手が育っており、現在各方面で活躍しています。

〈サッカー〉*****

成沢サッカースポーツ少年団

早起き成沢サッカー少年団

「わあーい、今年から成沢小学校でサッカーができるぞ！」この歓声があがったのは、昭和50年4月であった。それまで、助川小、油縄子小、大久保小の三会場に行っていた成沢っ子たちは、いつも肩身のせまい思いをしており、長続きもしなかった。成沢小学校に勤務の外岡先生（現在泉丘中）と、当時、日立サッカー少年団副団長、選抜チームの大越監督とでスタートしたのが、成沢サッカー少年団の誕生である。その時から、土曜日の午後は、成沢小学校校庭、日曜日は、野球少年団との関係で、朝6時から8時半まで日立専修学校の校庭をお借りし活動をしているところである。青葉台団地の最盛期には、団員数160名を超えるにぎやかさで指導者に苦しんだ時もあったが、現在は、3年生は2年生を加えて1チーム、4年生は、1チーム、5年生2チーム、6年生1チームという状況である。成沢小学校校庭はせまく試合はできないので、専ら練習試合は外へ出ていくことになる。練習量は少ないが、市内大会での優勝、準優勝、県学年別大会での高学年の部準優勝もあり、サッカーに集中する団員もおり中学、高校とサッカーを続けている者が多い。年間スケジュールでの特色ある行事としては、4年生だけの合宿、成沢サッカー少年団全員の合宿がある。下級生から上級生までをたて割りグループとしてチームをつくり、ゲームは勿論、当番の仕事もすすめます。中学1年の先輩も必ず参加してくれるのも伝統となり、いい思い出をつくっている。その他に、親子サッカー、とん汁会など親子の集いもあり、更に、卒団記念として、6年生団員親子で、毎年、筑波山の登山を行なっている。白い雪まぶしかった年もあったが、全員頂上をめざして登ったあとの壮快感は格別のものである。特色の一つに、成沢サッカー少年団が他に誇れるものがある。それは、

ボールリフティング大会を継続してすすめていることである。夏休みに行なわれる日立サッカー少年団の天心苑合宿でのボールリフティング大会では、必ず成沢サッカー少年団が上位を占める実績をもってくる。本年の成沢の記録は、4年の吉成くんが、6年生に大きな差をつけて1763回で総合優勝を手にした。来年の5年天心苑合宿では、更に記録を伸ばすことが期待される。「継続は力なり」で、たとえ体が小さくとも、足がおそくとも、自分の目標をもってサッカーを楽しむことができるということが、成沢サッカー少年団のモットーである。

このような成沢サッカー少年団の素地をつくってくれた方々は、下記の現指導者以外にも、住い、仕事の関係で成沢をはなれた方がおられる。福井県へ単身赴任の佐藤一夫さん、日立本社勤務の宮川義夫さん、水戸市立浜田小の羽名先生、豊浦に住まいを移られた小野さんなどである。

また、母集団としての「成沢サッカー少年団はげます会」の委員さん方は、毎年すばらしいバトンタッチで、きめ細かな活動をすすめられ広報誌「成沢サッカー少年団だより」も、お母さん方の手により作成されており、その速報ぶりには、常に敬意を表している。

グラウンドがせまくとも、冬期の朝の寒さが厳しさもしのいで、若い芽が伸びていく。それが成沢サッカー少年団です。

現指導者

大越典一、梶山清、吉田勉、小又則弘、根本進、伊藤健也、加藤卓則、滑川卓哉



〈サッカー〉*****

大久保サッカースポーツ少年団

日立スポーツ少年団、20周年おめでとうございます。

私達の団は、日立スポーツ少年団設立以前の昭和42年に、日立サッカー少年団として、助川会場と共に、設立された少年団の草分けでもあります。当時は、私はまだ受け持っておりませんでしたが、日立の北部地区が助川小学校で南部地区が大久保小学校で練習をしていたということです。当時は県内では日立が一番早く、それだけ子供達の育成の為に、サッカーを愛する子供をという方がおられたことを思われます。

さて、私はこの様な歴史が造られた団であることも知らず、昭和48年に大久保小学校校庭で子供達とめぐり合いました。翌年昭和49年、茨城国体の年から団をまかされ、以来今日まで続けさせてもらっております。当団の方針は“楽しいサッカー”“あいさつの出来る子供”を方針として活動しております。

それでは大久保サッカー少年団の活動を紹介致します。

- 昭和53年9月 はげます会（後援会）設立。
指導員2名 伊藤和彦
綿引英治（教諭）
- 昭和55年3月 6年生お別れ会を開催 毎年
- 昭和56年4月 団員79名
- 7月 第1回夏休み合宿 1泊2日
大久保小体育館
- 昭和57年8月 第2回夏休み合宿
笠松運動公園 1泊2日
東海荒谷台少年団と合同
- 昭和58年4月 大久保ママさんサッカーチーム誕生
- 8月 笠松合宿 荒谷台、大洗3チームの合同合宿
- 昭和59年6月 廃品回収を行う

8月 大洗合宿（この後交互に大洗と交流合宿を続ける）
パパさんチーム誕生

昭和60年 市内大会で6年生、4年生の2学年優勝する。

昭和62年 1月 真岡サッカー招待（初の遠征試合）

昭和63年 3月 はげます会10周年記念式典

以上の様に、当団では、夏休み行事として大洗サッカー少年団との交流合宿が子供達の最大の楽しみでありましょう。

また、後援会のパパさんチームは、現在もき1回を練習日とし、年2回から3回の試合をしており、健康と子供とのふれあいを大事にしてくれております。

団の指導者になった頃は1人で100名の団員を預かった年もありましたが、現在は力強い7名の指導者と、前記の後援会の御父兄、役員の方々に支えられ、私も20年近くの年月になっています。世の中の状況は20年前とは変わって来ています。子供達の数も減って来ています。少年団の活動もむずかしくなって来るかも知れません。しかし、むずかしくしているのは指導者かも知れません。そのこの所を間違わない様活動して行かなければならないと思います。最後に当団後援会の方々の御協力に敬意を表し、また今回の企画にあたられた方々の労に敬意を表します。

日立スポーツ少年団の益々の発展を記念し20周年記念のお祝いとします。

代表 伊藤和彦

〈サッカー〉*****

大沼サッカースポーツ少年団

大沼サッカー少年団は、日立サッカースポーツ少年団傘下の団として昭和50年に大沼小学校の子供達を中心に発足しました。団員は多い年に150名を超える時もありましたが、現在は、2年生から6年生約100名で構成されております。主な活動場所は、サッカーコートが2面とれる大沼小学校南側グラウンドを使用してもらっております。この恵まれた環境の中、毎週土曜日の練習、そして月2回程度日曜日に行う交流試合、その外、各種サッカー大会やマラソン大会へ出場し年間を通じて活動しています。

団独自の行事は、年2回の親子サッカーと夏休みに行なう1泊2日の合宿があります。親子サッカーは新団員を迎え入れた5月と6年生を送る3月に実施しています。何れも多数のお父さん、お母さんの参加がありサッカーやゲーム、そして食事会等、楽しい1日を過ごします。夏季合宿は、夏休みがスタートして間もない月末に大沼小学校の体育館を利用して行なうのが最近の恒例となっています。合宿といっても団員の和協が目的ですので楽しく過ごす事に重点を置いています。初日は練習を早めに終わり、お風呂替りのプールや、キャンプファイヤー、花火大会、ビンゴゲーム、そして消灯までの自由時間で終了し、2日目は、他少年団との交流試合を行ないます。行事の数は少ないのですが、内容面で年々充実が図られ子供達も楽しみにしております。

団の運営は、子供達の外、6人の指導者とお父さん、お母さんで組織する後援会で行なっております。各指導者は、責任学年を持ち子供達の個性や自主性を大切にしながら指導をしています。「サッカーを通じて多くの友達を作り、元気で明るく」を指導の基本方針としています。が、サッカーというスポーツを行なっていく上では、日頃の努力、最後までやることの大切さ、

そして試合での勝利がもつ大きな意義も重要な指導事項として、子供達との対話や練習内容をそれぞれ工夫しながら熱心に指導をしています。団の活動には、後援会の協力が不可欠です。大沼サッカー少年団では、楽しくサッカーが出来る様にと、子供達、そして指導者へと多大な支援を頂いており活動の大きな力となっています。また学校からも活動への理解を示して頂き、グラウンドや体育館の利用、朝礼時の成績紹介等に便宜を図って頂いております。この様な周囲環境の中で子供達の活動も充実し大会等における成績も年々向上しております。昨年度は、日立スポーツ少年団マラソン大会高学年の部で2年連続優勝、読売杯サッカー大会1部で3年生優勝、4年生3位、5、6年生が各準優勝と、団創設以来の成績を納めました。この結果は、子供達、指導者、後援会が一丸となって活動し結果と考えます。大沼サッカー少年団は、まだまだ発展途上です。今後も楽しい少年団を目指して頑張りますのでよろしくお願い申し上げます。



〈サッカー〉*****

坂本サッカースポーツ少年団

サッカーの人気の高まり、日立市にもサッカー少年団が結成されたその数年後、昭和46年に、坂本小学校を会場とするサッカー少年団が教員になりたての若い榎村先生を指導者にして創立された。

これより、子供達はわざわざバスに乗って大久保小学校まで行かなくてもよくなるとともに、毎日ボールを蹴れるようになった。サッカーが身近になったことや、小学校の先生が指導者ということもあり、サッカー少年団の人気の高かった。

その当時、練習は、放課後ほぼ毎日行なわれたという。榎村先生の熱血的な指導のもと、子供達はめきめき個人技、体力をつけ、早くもその年の学年別大会では、6年生と4年生のチームが優勝を飾った。日立選抜にも1名選ばれるという活躍ぶりである。

その後も、森先生、根本先生、松本先生、船橋先生、篠原先生など坂本小学校の先生が代々引き継いで献身的にサッカー少年団の指導にあたり、日立市の有力チームとして立派な伝統をつくりあげて下さった。また、卒団後に、中学、高校、社会人の県大会、国体、全国選手権大会などで活躍する選手も数多く巣立っている。

このように長年にわたって小学校の先生に指導を受けられたことは、他の少年団にない大変恵まれた点だったと言える。本当に歴代の先生方には感謝の気持ちで一杯である。

しかし、時代の流れとともに、いつまでも先生方の献身的な努力に甘えてばかりもいられないということで、徐々に地元地域の方を指導者に迎え入れ頑張っているところである。新しく指導者に加わった古市学氏、佐藤敏男氏は、坂本サッカー少年団の初代のOBだという。このような、少年団で育った子供達が大人になった時、その内の何人かでも指導者として戻ってきとくれるという流れを定着させて行きたい。

今年には指導者の関係で、ハイトリーCUP(内原町)、鯨光杯(常陸太田市)、富士山ジュニアカップ(富士吉田市)、水戸ライオンズカップ前座試合等の市外の大会に招待され参加している。今後は、招待されるばかりでなく、楽しい大会を企画し今までお世話になったチームを、こちらに招待してみたいと現在検討中である。

プロサッカーが発足、そのジュニアチームも組織されているが、こちらは“草の根”サッカーがモットーである。

生涯、サッカーを愛し楽しんでくれる“仲間”を増やすつもりで子供達と接して行きたいと思っている。「一人一人の子供が、それぞれに上達し、その喜びを分かち合える仲間がいる」そんなチームづくりが目標である。



〈サッカー〉*****

諏訪サッカースポーツ少年団

団の指導方針は、団員個々の能力に合った指導に重点をおき、そして勝利主義に走ることなく明るく楽しいサッカーをモットーにした指導方針の基に、昭和44年4月に発足した比較的新しい団です。団発足に当っては、当時諏訪小学校の神谷先生（現大久保中）を中心に地元のサッカー経験者数名の方で指導を行っていました。当時の団員は、5年生18名・4年生25名・3年生27名の計70名の団員構成で練習は、毎週土曜日の午後1時30分から諏訪小グラウンドで行ないました。この当時は、市内で行なわれる各種大会で毎回大敗して試合になりませんでした。指導者の熱心な指導がその後団員に浸透しすこしづつではあるが勝つ事が出来るようになりました。

団発足の年の9月に、団員の各種大会の応援及び諸活動への援助を目的として、はげます会が組織されました。はげます会の皆様の積極的な応援にはげまれ団活動もしだいに活発になりました。

昭和61年度は、第二次ベビーブームの影響で団員数が130名に膨れあがりました。幸い指導陣も神谷先生を筆頭に菌部先生（現内原町鯉渕小）小貫先生（現河原子中）原田先生（現東海村村松小）と学校の先生が4名と須藤（日立市役所サッカー部）の5名が揃っていました。この頃から団の成績もしだいに良くなってきて、日立選抜チームへも入れる団員が育つようになりました。そして昭和63年の県学年別大会において4年の部（現中学2年生）で3位の成績をあげる事が出来ました。この年に諏訪小のグラウンドで育ったOBの坂本（現市役所サッカー部）そして翌年に佐藤（現市役所サッカー部）の両名が指導者として戻ってきました。

平成になってからは、どこの団でも同様な減少が出ているように団員数が減少して来ています。平成3年度の団員数は98名で100名を割ってしまいました。この傾向はしばらく続くと思われませんが、今後も諏訪の指導方針の基に

指導していきたいと思います。

現在の活動

- ・市内各種大会参加
- ・笠松スポーツ天国少年サッカー大会参加
- ・姉妹都市の桐生市来た少年団との交流試合（昭和63年から交流）毎年8月
- ・諏訪サッカー少年団合宿（8月）
- ・もちつき大会（12月）
- ・親子サッカー（2月・12月）
- ・お別れ会（3月）

練習日 毎週土曜日と日曜日の早朝

会場 諏訪小グラウンド

団員構成 2年生14名、3年生13名
5年生18名、6年生26名
計90名

団役員

団長 須藤正男
指導者 山口恵一
" 森 栄
" 坂本和昭
" 小野克敏（事務局）
" 河村英夫
" 穂荻 実
" 深谷幸雄
" 佐藤慎一

はげます会役員

会長 桜井 博
副会長 阿部 徹
" 高橋 涉
会計 根本修明
運営委員 10名（名地域）



〈サッカー〉*****

中小路サッカースポーツ少年団

日立市のほぼ中央に位置する中小路小学校にサッカー少年団が産声をあげたのは昭和54年4月。日立市サッカースポーツ少年団の発足により12年遅れて誕生した訳である。それ以前にもサッカー好きの子供達がいたようですがその子たちは毎週土曜日になるとボールをさげて隣の宮田小学校まで足を伸ばしていたようです。

さて、指導者4人（新蔵、小松崎、小川、石川の各先生）、団員が50数名集まりめでたくスタートはしたもののゼロからの出発のため、サッカーのサの字も知らない子供達ばかりで指導者一同大変苦労したと聞き及んでおります。現在、団員60名、指導者7名で活動しておりますが悲しいかな、旧市街地の中心である当小学校にもドーナツ現象が押し寄せ、児童数が年々減少し（今年から1年生は1クラス）、団員の確保に苦慮している現状です。しかし、明るい話題としては、5人の女子が男子団員と共に汗を流し、サッカーを楽しんでいることです。サッカーも今や男のスポーツだけではなくてきております。「女子リーグ」も開催され、全日本女子チームも結成される時代です。いつかは中小路でも女子チームをつくりたいと常々考えているところです。

活動日は、週2～3回。指導者の職種がさまざまであり、指導できる時間帯もまちまちなので、それぞれが無理なく活動できるように、また、誰が指導しても統一した同じ指導方針で指導ができるようにミーティングを随時もちながら活動しております。活動内容は勿論サッカーですが小学校時代には身体のすべてを使うことが大事と考え、時には「玉蹴り」を忘れボールゲーム等に興じることもしばしばです。サッカーに限らずすべてのスポーツ競技でもそうですが大人が子供に「勝つこと」を強要しがちです。しかし、「勝つこと」を欲するのは子供たちであるべきであり、子供たちが勝ちたいとい

う意欲を表してきたときに良いタイミングで、適切な指導をすることが大切なことであり、また、目標を与え、その目標に向かって努力することを教えるのが本当の指導者であると思います。「楽しくサッカーをやる」ことをモットーに子供達と共に汗を流しております。

夏休みには、全員参加のもとに合宿を実施します。この合宿には、当団発足以来交流をもっている栃木県の雀の宮サッカー少年団も参加し、交流試合や交歓会等々、子供達が待ちに待っている楽しい合宿となります。

また、子供達と父兄とのサッカーを通してのふれあいを求めて「親子サッカー大会」を毎年1月15日の蹴り初めの日と3月の「6年生を送る会」に日に実施します。不断の運動不足解消とやらでハッスルプレーを披露するお父さん、お母さん方、子供達もシロウトの父親、母親相手とばかりに人一倍ハッスルし、「もう少し、あと一試合…」と切りがありません。そして、蹴り初めときには試合終了後、お母さん方の心のこもったおしるこを食べ、一年間無事にサッカーできることを祈りながら閉会します。また「6年生を送る会」のときは、団員、指導者全員そして父兄参列の上で「送る会」を開き、後輩や指導者からねぎらいの言葉や励ましの言葉をいただき、少年団の活動を終了します。以上、簡単に当団の活動を紹介しました。これからも団員、指導者、励ます会と三者一体となり、より楽しいサッカー少年団をつくっていききたいと思っております。

千田康博



〈サッカー〉*****

金沢サッカースポーツ少年団

日立市スポーツ少年団本部設立20周年心よりお祝い申し上げます。また記念誌の発刊にあたり「金沢サッカー少年団」の現在までの歩み、現状について紹介させていただきます。

1. 創設より現在までの歩み

(1) 歩み

金沢サッカー少年団は、昭和61年に創設され、当時は数名の指導者に100名を越す団員で構成され大変なご苦勞があったと聞いております。その間、代表者、指導者の交替もあり、他団との交流、指導により団運営の確立、指導者の意思疎通が計られ、充実した少年団として現在に至っております。

(2) 団員の変

	～3年	4年～	計
平成1年	13	86	99
〃 2年	10	67	77
〃 3年	22	61	83
〃 4年	21	53	74

2. 現在の活動

(1) 活動の目標

「規則正しく、元気よく、サッカーを楽しもう。」も目標と、ルールを守れる強い身体と精神力を持ち、相手を尊重し思いやる心を持つ健全な青少年育成を目指しております。

(2) 練習日

土曜日	低学年	13:30～15:30
	高学年	15:30～日没
日曜日	全学年	15:00～日没

(3) 練習会場

金沢小学校グラウンド

(4) 主な行事

少年団大会、地域活動への積極的参加、その他単位団活動として、親子サッカー、夏期合宿、冬期スケート等、母集団を含

め、三位一体を計ることを実施しております。



(平成4年度 夏期合宿)

3. 平成4年度組織紹介

(1) 指導者

団長	石川信平
指導者	田中定男
	大月国広
	境川洋聖
	大楽 裕
	森田進一

(2) 母集団

会長	五十嵐豊
副会長	鈴木安代
	増子寿子
書記	宇佐美和子
	山中利恵
会計	井上かつよ
	関 則子

〈サッカー〉*****

水木サッカースポーツ少年団

水木サッカー少年団の設立は昭和63年であり、方針を「正しく力強く生きる人間の育成」とし「ボールと遊ぼう」を合言葉に活動している。

設立後5年目という節目を迎えているが、当初は、大みかちと大沼のサッカー少年団に入団していたサッカー好きの子供達を中心に、水木小学校近郊の子供達役80余名を集め、団長、コーチ8名でスタートした。各大会にも参加するが成績には結びつく事が出来なかった。それでも父母が組織する後援会に見守られ、元気な子供達は練習に、試合にと、一生懸命汗と泥にまみれボールと遊んだ。そして毎年20余名前後の入卒団者を迎えることが出来ている。

現在までの成績は、昨年の第18回茨城県サッカースポーツ少年団低学年大会に市内予選で勝ち進み、出場出来たのが唯一の形として残る成績であり、やっと他のサッカー少年団に近づく事が出来るようになったかと感じている。

現在の練習は水木小学校のグラウンドで毎週日曜日にAM9:00～PM3:00まで行なっている。また、毎年夏期には合宿、そして子供達の成長を親に体感してもらうため年数回の親子サッカー大会を実施している。

団の運営は、練習、試合を子供達が精一杯プレー出来る様にと、後援会が中心となって事務局の水木小学校市毛先生、そして、里美団長、各コーチと連絡を密にして進めている。

今後は、冒頭述べた如く、5年目の節目であり、お世話になった他のサッカー少年団に恩返し出来る様にと共に、子供達がさらにボールと遊ぶ事が好きになる様に後援会、団長、コーチ一同一生懸命努力行く所存であります。

平成4年度

事務局	堀江 道雄
後援会長	根目沢正一
副会長	村田 博
〃	菅原ひとみ
〃	田山美智子
団長	里美 昭治
コーチ	丸谷 一也
〃	早坂 三四司
〃	堀江 道雄
〃	鈴木 正二



(有)協同設計社

代表取締役 桑 名 考 二

日立市東大沼町2-15-11
TEL 0294 (34) 1258

産業機械・設計製作
(社員同時募集中)

(有) 錦 工 業

代表取締役 山 本 一 衛

日立市諏訪町大平田1107-1
TEL 0294-33-0011
FAX 0294-32-1699

スポーツ用品・レジャー用品



ビッグスポーツ

- 日立銀座通り ☎(23) 2212(代)
- 高萩市春日町 ☎(23) 4737

家具&インテリア



リビング館LORD

日立市平和町2-7-10

TEL 0294 (21) 0010(代)

パステリア

パン・洋菓子

日立市神峰町1-10-25

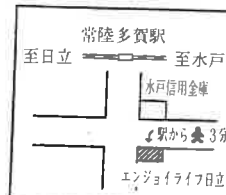
TEL 21-5876

俊英塾・英会話教室
(セルネートスクール)

日立ワープロ教室

エンジョイライフ日立

日立市千石町1-4-24 (水戸信用金庫隣)
☎0294 (35) 0255



皇蹴会

(日立工高サッカー部OB会)

会 長 今 橋 幸 彦

祝 日立市スポーツ少年団設立20周年
日高サッカー少年団 指導者一同

小高 忠良
菊池 昇
相内 修
森 茂
大久保 興
菊池 和男
西山 忍

藤田 勝広
梶山 靖男
吉田 丈男
河村 隆
須田 典征
太田 康夫

日立チェーンストール・通産省サービス技術認定店
日立家電社販取扱店

WODEN オーディン

〒319-14 日立市川尻町5-8-20
☎0294 (43) 5657

祝 日立市スポーツ少年団設立20周年
日高サッカー少年団 関係者一同

茅根 茂彦
茅根 伝一
永山 雄資
鈴木 哲士

西野宮 考
関 克巳
柳生 節郎
茅根 賢次

もめんの店

はっぴい・しょっぶ

代 表 渡 辺 武 男

日立市諏訪町2-1-1
TEL (0294) - 36 - 1388

自動車整備・自動車販売・自動車保険

日協自動車整備工場

代 表 河 村 英 夫

日立市桜川町3-15-1
TEL 0294(35) 7760

BRIDAL FASHION
婚礼貸衣裳

株式会社 緑 屋

日立市弁天町2-24-5
TEL 0294-23-0619

各種新車・中古車販売・車検・一般修理
各種保険・ポリマー加工・車体防錆

有限会社
サンデーガレージ

代表 福田 仁彦

日立市川尻町1-7-17
TEL/FAX 0294(43) 5439
(43) 4061

日立のプロショップ
サッカー
日立スポーツ

6国通り ☎0294-22-1406

君が輝く時期待に応える日スポ

有限会社
伊藤スポーツ

日立市サッカー協会事務局
茨城県サッカー協会審判部事務局

本店 日立市扇町1-18-3 TEL(0294)34-1470
大みか店 日立市大みか町大みか駅前 TEL(0294)53-7246

季節料理
豆ふ料理
会席料理



豆ふづくし 心づくし

日立市弁天町2-20-4
てんわ (22) 3631

高 畠 正 利

日立サッカースポーツ少年団

団 長 白石 征一
副団長 小高 忠良
及 川 一
鈴 木 猛
事務局 千田 康博

日立市スポーツ少年団本部設立20周年おめでとうございます。

金沢サッカー少年団後援会

代表 五十嵐 豊

日立市台原町2-25-9
TEL 35-1890

卸 OA機器
OAサプライズ・事務機・事務用品・一般文具・オフィス家具

コクヨ代理店

(株) ナガモリ

〒317 日立市東清川町3-1-15
電話 (0294) 24-1853代
FAX (0294) 23-0081

日立市スポーツ少年団本部設立20周年おめでとうございます。

万十屋鮮魚支店

宇佐美 洋治

日立市金沢町7-7-1
TEL 32-2402

有限会社 安藤生花店

代表取締役 安 藤 雅 樹

日立市宮田町2-5-17

TEL 0294 (21) 4767
FAX 0294 (21) 3978

祝

日立市スポーツ少年団本部
設立20周年記念

滑川サッカースポーツ少年団

団長 大坪和典
後援会一同

日 立 食 堂

日立市宮田町3丁目5番5号

斉 田 俊

電話 (21) 1085番